

【校長室より】

令和3年 7月
東京都立武蔵野北高等学校長
鵜飼 敦之

4月25日から始まった緊急事態宣言がようやく解除され、全学年登校による日常が戻ってきました。この間、実に58日、授業日になると40日になりました。1年生のスプリングセミナー、2年生の校外学習が中止となり、体育祭は、分散登校下での実施となりました。4月当初、皆さんに「学校での授業を大切に」、「特別活動への積極的な参加を」とお願いしたのですが、様々な活動が制限されてしまいました。そのような中、



「今年できる最高の体育祭を目指す」 皆さんの取組を讃えたいと思います。

コロナウイルスは、依然として終息の兆しが見えてこず、より感染力の強い菌が広がるなど都内では、リバウンドが指摘されています。生徒の皆さんも保護者の皆様も引き続き感染対策には気を緩めずに取り組んでください。

一方、オリンピック・パラリンピックですが、観客を入れて実施する方向性が示されました。学校連携観戦については、まだ検討中とのこと、早めに確定することを期待したいと思います。実は、私もオリンピックのチケットを持っているので、やきもきしています。

いづれにしても我々人類は、過去には中世ヨーロッパで猛威をふるった黒死病や江戸の町で流行したコロリ（コレラ）にもうち勝ってきたのです。叡智と努力でこの難局を何とか乗り越えたいものです。

1学期の期末考査が始まりました。先週から自習室や自習机は、ほぼ埋まった状態が続いています。朝は7時30分過ぎ頃から、放課後は19時まで、ホームページ上でも活況の様子をお伝えしている通りです。定期考査は、日々の学習の成果をしっかりと把握し、自己の課題や定着状況を確認する大切な機会です。しっかりと体調を整えて臨んでください。



どんなことをする場合にもちょうど良い時というのがあります。このちょうど良い時を『適時性』といいます。例えばアジサイは梅雨の時期に咲きます。アジサイにとって花を咲かせるには、この時期が最も良い時期なのです。アジサイを秋や冬に咲かせることはできないし、たとえ咲かせることができても梅雨時のようにはきれいには咲かないでしょう。

同じように人間にとっても効果という点では適時性があると言えます。例えば二十歳を過ぎてからピアノを習うような場合、あまり多くの成果は期待できないでしょう。しかし、生きている限り勉強だと言われる今は、考え方を変えねばなりません。なんととっても、人間には意欲というものがあるのです。勉強をしようと思った時が勉強をするのに相応しい時期なのです。自己の夢や希望を叶えるために勉強をしている皆さんの誰にとっても今が良い時期だといえます。今を逃しては、チャンスは遠のいてしまいます。このことはしっかりと自覚して勉強に向かってください。

先生方はそのために全力で応援をします。